

平成28年人口動態統計（概数）に係る知事コメント

秋田県の平成28年の合計特殊出生率が、前年より0.04ポイント改善し、全国順位も上昇したことは、保育料助成制度の充実をはじめとした近年の対策の効果が、徐々にではあるが現れてきていると推測される。

しかしながら、未だ全国平均を下回っており、4月から設置した「あきた未来創造部」を中心として、結婚・出産・子育ての環境整備など総合的な少子化対策をこれまで以上に強力に進めていく。

秋田県のがん、脳血管疾患による死亡率については、依然として非常に厳しい結果となったが、運動習慣の定着や食生活の改善、健（検）診の受診率向上など、健康寿命の延伸に繋がる取組を一層強化するため、市町村や関係団体と一丸となって「健康寿命日本一」に向けて県民運動を展開していく。

自殺については、自殺者数が7年連続して減少しており、250人の節目を下回る結果となった。引き続き、自殺予防の普及啓発や相談体制の強化、市町村や民間団体等が行う地域における取組の支援などを行い、自殺で命を失う方を一人でも減らすよう、民間、大学、行政が連携して取組を強化していく。

平成29年6月2日

秋田県知事 佐竹敬久